

◆授業設計のポイント◆

- ・ 個々の生徒の思いや意図を，集団の中で表現できるような学習形態の工夫
- ・ 「音楽科で目指す実践力」の育成につながる到達目標問題の設定

音楽科学習指導案

学 級 3年6組(男子19名・女子19名 計38名)

場 所 第1音楽室(1年校舎4階)

授業者 教 諭 岩 切 理 恵 子

1 題 材 旋律の動きを理解して表現を工夫しよう [共通事項]リズム，旋律，強弱

教材 「夏の日の贈りもの」(混声二部合唱)(高木あき子作詞/加賀清孝作曲)

2 題材について

(1) 題材観

本題材は，学習指導要領「第2学年及び第3学年 A 表現(1)ア 歌詞の内容や曲想を味わい，曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。ウ 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して，表現を工夫しながら合わせて歌うこと。」に関する内容である。

音楽教育の目標は，生徒の将来の生活を豊かにするために，表現や鑑賞の活動を通して，音楽性を伸ばすとともに，音楽を愛好する心情と感性を育て豊かな情操を養うことである。音楽の基礎的な活動の一つである歌唱，特に協調し合いつくり上げる喜びを感じながら豊かに表現することが可能な合唱は，より深い音楽，より感動する音楽を生徒に味わわせ体験させるのに適していると考えられる。

本校の生徒は，音楽の授業をはじめ，音楽コンクールや文化祭等で合唱活動を経験するが，合唱はリズムや音程を合わせることで「仕上がった」と思って満足しているところが見られる。また，楽曲について深く考えたり，音楽を形づくっている要素と曲想との関わりについて理解したり，歌詞の意味や，歌詞に込められたメッセージを伝えるように歌ったりするなど，試行錯誤を繰り返し表現を練り上げていくことの楽しさを味わうまでに至らないことが多い。

音楽は，音楽を形づくっている要素や構造と曲想が互いに深く関わり合って成り立っていることに気付かせることは重要であり，生徒はそのことによって，楽曲の内容をより深くイメージすることができ，表現を工夫していくことができると考える。つまり，音楽を形づくっている諸要素を理解し，それらと音楽の構造や曲想との関わりを感じ取る能力を育てることが，表現を工夫するための技能を高めていくことにつながるといえる。そこで，音楽を形づくっている諸要素を理解し，それらと旋律線との関わりを感じ取らせながら表現の工夫を考えていく活動を通して，歌唱表現の楽しさを味わわせることをねらいとして本題材を設定した。

本教材「夏の日の贈りもの」は，7月に実施される本校音楽コンクール3年生の課題曲である。変ロ長調，4分の4拍子，混声二部合唱で，無理のない音域で歌いやすく，男声と女声の掛け合いによる響きが美しい曲で，生徒にも大変好まれている。安らぎを感じられるような豊かな詩情が込められた歌詞と，旋律の抑揚が一体化しており，旋律のまとまり，声部の重なりやバランス，強弱の変化など，これまで学習したことを生かしながら聴き手に自分たちの思いを伝えられるように，表現の工夫と技能を高めさせるのに適した教材である。

生徒一人一人が楽曲の表現について考え，仲間とともに工夫していくことで，主体的な音楽活動が図られ，音楽表現の楽しさや豊かさを味わわせることをねらいとして本題材を設定した。

(2) 生徒の実態（アンケート対象：3年6組男子19名女子18名計37名回答）

今回の学習に取り組むに当たって、事前調査を実施した。

- 1 音楽の授業でのグループ活動（合唱のパート練習やグループ練習）は好きですか。
好き（18人） どちらかといえば好き（12人） どちらかといえば嫌い（5人） 嫌い（2人）
好きな理由：教え合って上手になるから、みんなでやると楽しいから、できるようになるから
嫌いな理由：相手と同じように出来ないから、差があるから、一生懸命やらない人がいるから
- 2 音楽の授業でのグループ活動（表現や鑑賞での話し合い活動）で自分の意見や考えを発表できますか。
できる（12人） どちらかといえばできる（14人） どちらかといえばできない（8人） できない（3人）
できると答えた理由：前からやっている、自分の考えを聞いてほしいから、言うだけだから
できないと答えた理由：自信がないから、自分だけ意見が違っていると嫌だから、音楽に詳しくないから
- 3 合唱をする時に、「～のように歌いたい」という思いや気持ち、イメージをもっていますか。
はい（23人） どちらかといえばはい（8人） どちらかといえばいいえ（4人） いいえ（2人）
- 4 合唱をする時に、「～のように歌いたい」という思いや気持ちを実際に演奏で表現できますか。
できる（4人） どちらかといえばできる（12人） どちらかといえばできない（16人） できない（5人）
できると答えた理由：ピアノを習っているから、吹奏楽をやっているから、楽譜を読めるから
できないと答えた理由：思ったように実際は歌えないから、思いがあっても歌い方がわからないから
- 5 合唱をする時に、何を手掛かりに表現の工夫をしていますか。（複数回答）
強弱（24人） 速度（21人） 歌詞（18人） リズム（17人） 音程（16人） 響き（14人）
音色（10人） 諸記号（10人） 声部の違い・役割（9人） 旋律（8人） 拍子（3人）
構成（3人） 作詞者・作曲者の思い（2人） フレーズ（1人）

アンケートの結果から、音楽の授業の中でのパート練習やペア練習などのグループ活動を好む生徒が多く、話し合い活動においても、自分の思いを伝えたり、友達の意見を参考にしたりしながら、共によりよいものをつくり上げていきたいという思いをもっているようである。

しかし、自分の思いや意図を実際の演奏で音楽表現できていると考えている生徒は半数以下で、歌唱の技能や言語活動などの基礎力が十分ではないことに起因していると思われる。音や音楽から聴き取り、感じたことを生徒に言葉で表現させるのは容易ではない。音楽の諸要素を感覚的に捉えることができても、それを音楽と結び付けたり、適切な言葉に置き換えることができない場合もある。自己のイメージや思いなどを他者と伝え合ったり、他者がどのようなことを意図しているのかをよく考えて、それに共感したりするためには、音楽に関する用語や記号などを適切に用いることが有効であると考えられる。表現したい思いや意図をもち、要素の働かせ方を試行錯誤し、個々の能力や習熟度に応じてよりよい音楽表現の方法を見い出して歌うことが表現の工夫となる。楽譜に示されている用語や記号についても、なぜその部分に記号が付けられているかを考えたり、どのように演奏したら（音色、強弱など）よいかを仲間と話し合ったり実際に試したりする活動をさせたい。

(3) 指導観

ア 歌唱活動の基礎や、既習の学習内容を活用し、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じさせる。

イ 話し合いや合唱練習等のグループ活動の中で、生徒が主体的に活動できる場を多く設定し、自分もった思いや意図を他者と共有し学び合いながら、生徒自身が話し合ったことを音楽表現にどのように生かせるかを考え、工夫して歌うという主体的な表現活動へつなげさせる。

ウ 今までの合唱経験や演奏を想起させる場面を設定することで、楽曲への思いを深め、より歌詞の内容や曲想にふさわしい音楽表現ができるようにさせる。

3 題材の目標

- (1) 旋律線と強弱との関わりについて興味・関心をもち、それを生かした歌詞の表現に主体的に取り組むことができる。
(ア音楽への関心・意欲・態度)
- (2) 旋律線のもつ特徴を感じ取り、それらを強弱と関わらせながら、どのように表現するかについての思いや意図をもつことができる。
(イ音楽表現の創意工夫)

- (3) 旋律線のもつ特徴と強弱との関わりを生かした音楽表現をするために必要な、発声や言葉の発音、呼吸法などの基礎的な技能を身に付けて歌うことができる。 (ウ音楽表現の技能)

4 題材における評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
○ 歌詞の内容や曲想、旋律線と強弱との関わりなどに関心を持ち、それらを生かした音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	○ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。 ○ 歌詞の内容や曲想を味わったり、旋律線と強弱との関わりを理解したりしながら、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	○ 歌詞の内容や曲想、旋律線と強弱との関わりを生かした音楽表現をするために必要な、発声や言葉の発音、呼吸法などの基礎的な技能を身に付けて歌っている。

5 題材の指導計画 (全3時間) [単位時間における評価規準]

時	主な学習活動	単位時間における評価規準		
		ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
1	1 「夏の日」の贈りものをパート練習で音程を確認してから、混声二部合唱で歌う。 2 [A]、[B]の部分の旋律線の動きと強弱を全員で確認しながら歌う。 3 [C]の部分の旋律線の動きと強弱について個人で確認し、旋律と強弱の関わりについて考える。	○ 歌詞の内容や曲想、旋律線と強弱との関わりに関心を持ち、それらを生かした音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	○ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特徴や雰囲気を感じている。	
2 (本時)	1 前時の学習を振り返り、グループごとに[C]の部分の表現の工夫について話し合い、練習する。 2 話し合った内容や表現の工夫と演奏を発表し合う。		○ 歌詞の内容や曲想を味わったり、旋律線と強弱との関わりを理解したりしながら、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	
3	1 歌詞の内容や曲想、旋律線と強弱との関わりを生かした音楽表現について全員で確認する。 2 まとめの合唱をする。			○ 歌詞の内容や曲想、旋律線と強弱との関わりを生かした音楽表現をするために必要な、発声や言葉の発音、呼吸法などの基礎的な技能を身に付けて歌っている。

6 到達目標問題

到達目標問題

「夏の日」の贈りもの」の音楽表現の工夫について、リズム、旋律、強弱などの音楽に関する言葉を用いて具体的に答えなさい。

解答例

[A]はユニゾン(斉唱)なので、全員で呼吸を合わせることを意識する。[B]に向けて少しずつ音が上がっていくので、自然にクレシェンドしながら歌う。[B]から二部に分かれるが、男声の主旋律なので少し前が出る感じで、女声はゆるやかな動きの副旋律なので力を抜いて柔らかい声で歌う。[C]は曲の山場なので、男声も女声もエネルギーを高めていく感じで体の支えをしっかりとってクレシェンドしていく。女声も男声も音の跳躍があるので広がりを感じられる。男声と女声のリズム(音の動き)がそろうところと違う動きをすることで意識して、お互いの旋律を聴き合いながら歌う。最後のフレーズは曲の終わりを感じさせるように、落ち着いて少しゆっくりめに言葉をはっきりと発音する。山の向こうに向かって、単に弱くしていくのではなく自然に音が遠ざかっていくようなdim.で、終わる感じを出す。

解答の根拠

音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、どのように歌うかという音楽表現の工夫をしている。

7 本時の実際 (2 / 3)

(1) 題材 旋律の動きを理解して表現を工夫しよう - 「夏の日」の贈りもの -

(2) 目標 旋律線を生かした表現を工夫することができる。

(3) 授業設計の工夫

ア 個々の生徒の思いや意図を、集団の中で表現できるような学習形態の工夫

研究の視点2

- ・ 個々の演奏技能や習熟度に合わせたグループ編成をする。
- ・ 曲の音楽的な特徴から感じ取ったことを自分の言葉で発表させ、話し合わせる。
- ・ 話し合ったこと、学び合ったことを基にして、よりよい音楽表現を目指して練習させる。

イ 「音楽科で目指す実践力」の育成につながる到達目標問題の設定

研究の視点3

- ・ リズム、旋律、強弱などの、音楽を形づくっている要素[共通事項]に着目して楽譜への書込やワークシートの記入をさせ、具体的な音楽表現の工夫につなげさせる。

(4) 展開

過程	時間経過	主な学習活動	○指導上の留意点 ◎評価 ※授業設計の工夫
導入	4分 一斉 3分 一斉	1 「夏の日」の贈りもの[A]と[B]の部分で歌う。 2 本時の学習課題を確認する。 旋律線を生かした表現をするためにはどんな工夫をすればよいだろうか。	○ 前時の学習を振り返りながら歌わせ、本時の学習への意欲を高めさせる。 ○ 本時の課題と学習の流れについて提示し、見通しをもたせる。 ○ 既習したことを生かして、音楽表現への意欲をもたせる。
展開	26分 グループ 10分 グループ 3分 一斉	3 グループに分かれて、「夏の日」の贈りもの[C]の部分の表現の工夫について話し合い、まとめたことを基に練習をする。 4 グループごとに工夫したことを生かし、発表をする。 5 各グループの発表を聴き、表現の工夫ができていないか確認をする。 6 グループごとに考えたことを生かして、表現を工夫しながら全員で歌う。	○ 前時に学習した[A], [B]の部分を参考に、[C]の部分の旋律線と強弱との関係を考えさせる。 ※ 前時に書込をした楽譜や、ワークシートの内容を活用し、旋律線と強弱との関わりについて気付かせ、それを生かした音楽表現を考えさせる。 研究の視点3 ◎ 歌詞の内容や曲想を味わったり、旋律線と強弱との関わりを理解したりしながら、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 ※ 話し合っまとめたことを基に、グループごとに歌ったりしながら音楽表現を工夫させる。 研究の視点2 ○ 各グループの工夫した点に注目させながら聴かせる。 ○ グループで考えて工夫したことを意識しながら歌わせる。
終末	3分 個人 1分 一斉	7 本時の振り返りをする。 旋律線を生かした表現をするためには、旋律の特徴やまとまりを理解し、旋律の変化に合わせて強弱の変化を付けたり、リズムの変化を意識しながら歌うことが大切である。 8 次時の予告を聞く。	○ 本時のまとめをさせる。 ○ 生徒の活動や変容を認め、次時の学習への意欲につなげる。